

## リード

SUBARU(富士重工業)など自動車メーカーの部品製造を主力ビジネスとするリード(本社・埼玉県熊谷市、岩崎元治社長)は3月1日付で日鉄日新ビジネスサービス(旧新和企業)から駐輪事業を譲り受けた。

リードは22年にわたって日鉄日新ビジネスサービスの駐輪機器製造を担当してきた実績があり、駐輪機器の製造には定評があるが、駐輪事業を引き受け

たことを転機として今後は駐輪ビジネスの拡充を本格化していく方針だ。

駐輪事業を担うのはLB事業部。自動車の部品製造で培ってきた技術力を活かした駐輪機器の製品開発に全力投球していく構えだ。

自転車を利活用したまちづくりに向けたトータル提案を期す岩崎元治社長にインタビューした。

### INTERVIEW

## 「付加価値のあるトータル駐輪ビジネスに取り組んでいきます」

### リード・岩崎元治社長に聞く



#### 3月1日付で日鉄日新ビジネスサービスから駐輪事業を継承

—3月1日付で日鉄日新ビジネスサービスから駐輪事業を譲り受けたわけですが、新たな取り組みですね。

「そうなります。ただ、当社は1999年4月から日鉄日新ビジネスサービスさんの前身である新和企業さんの仕事をしてきたわけで、駐輪機器の製造を22年にわたって担当してまいりました。したがって駐輪機器の何たるかは理解しているつもりです。そういう意味で駐輪機器の製造を支障なく引き継いでいく自信

は持っております。ただ、単に製造の仕事を引き継ぐというだけでなく、そこに新たな付加価値を創造していけるようなビジネスを推進していきたいと考えております」

—長年にわたって自動車の部品製造を手掛けてきた御社の技術力には定評がありますが、

「お陰様でSUBARU(富士重工業)様を主力とする自動車の部品づくりに取り組んできた中で、ものづくりの技術、ノウハウは蓄積してきました。自動車業界の要求品質は厳しいですからね。ただ、そこにとどまっているだけでなく、自社ブランドの製品づくりにもチャレンジして

いきたいというスタンスは常に持ち続けてきました。そういった状況下、今回、日鉄日新ビジネスサービスさんから事業譲渡の話がありまして、お引き受けることにいたしました。当社が持っている技術力を駐輪機器の製造に活かし、ニーズの高い製品をつくっていききたいと思います。企画、設計、製造、販売、アフターサービスまで駐輪機器に関してはトータルのビジネスを展開していきます」

—新たな事業の柱として駐輪事業を育てていきたいと考えているわけですね。

「やる以上はそうしたスタンスで取り組んでいきます。当社

にはLB事業部があります。LBはリード・ブランドという意味で、自社ブランドのものづくりを推進していく部署です。駐輪事業はこのLB事業部が担当します」

### —駐輪事業の体制は？

「日鉄日新ビジネスサービスで駐輪事業に取り組んでおられた5名の社員がそのまま当社のLB事業部に移り、当社からの責任者が1名加わり、総勢6名体制でスタートします」

### —一年間の売上げ目標は？

「初年度は支障なく日鉄日新ビジネスサービスの仕事を引き継ぐということから始めます。シンワブランドの駐輪機が提案してきたコンセプトを継承し、切れ目のない商品供給を続けていきます。また、駐輪設備のメンテナンス業務も変わることなく提供してまいります。ただし、当社ならではの付加価値を付けたビジネスを展開していくこと

によって事業として成長していけると考えています。やるべきことをしっかりやっていけば必ずから結果はついてくるはずですよ」

## 景観照明、街路灯照明と組み合わせた提案を構想

### —新たな取り組みとして具体的にどのようなことを構想しているのでしょうか。

「当社がかつて照明機器事業に取り組んできました。景観照明、街路灯照明といった分野で地方自治体、商店街に照明機器を提案してきたのですが、今回、駐輪事業を強化するにあたって照明機器事業で蓄積してきた経験、販路を活かすことができるのではないかと考えています」

—確かに駐輪場というのは景観に対する配慮、デザイン力というものが問われます。そういう意味で御社の提案力に期待した

いでですね。

「当社が駐輪事業部を展開していくにあたっては強みが2つあります。1つは自動車の部品を製造してきた中でもものづくりの体制を構築してきたということです。当社には品質保持の体制、技術力の練磨、設備の構築などが整っています。2つめが景観照明事業で蓄積してきたまちづくりの経験です。この2つの要素は駐輪事業と密接な共通項があると考えています。駐輪事業を推進していくことは地域社会・商店街の活性化に貢献できることだと思います」

### —魅力的な提案を展開することができそうですね。

「ソーラー発電を含めた街路灯照明というのは景観を引き立てるだけでなく、防犯、非常時の防災などにも貢献できます。実現していきたいことはいろいろありますので、駐輪ビジネスを成長戦略として育てられるよう全力を尽くします、オンリーワンのものづくりに注力し、新たなニーズを創り出せるようなビジネスを心掛けていきたいと思っています」

### 株式会社リード

1949年に設立された自動車部品メーカー。経営トップは岩崎元治社長。埼玉県熊谷市に本社工場。2020年3月期の売上高は64億円超。駐輪機器の製造は日鉄日新ビジネスサービス(旧新和企業)とのパートナーシップで22年にわたって取り組んできた。今年3月1日付で同社から駐輪事業を譲渡された。今後はLB事業部が駐輪事業を担当する。



シンワブランドの人気商品・垂直昇降式サイクルラック

## カメラ・レポート

### リード・本社工場 (埼玉県熊谷市)

熊谷市弥藤吾にあるリードの本社工場を訪ねた。

同工場は品質マネジメントシステムの継続的な改善と技術力の向上に注力するISO9001認定工場だ。また、資源・エネルギー問題に対応して高度な環境

マネジメントシステムの構築を目指してISO14001の認定も取得している。

同社の主力取引先はSUBARU(富士重工業)で、バンパー、ドア、ブレーキレバーなど自動車のパーツを生産している。リードの技術力、生産能力、品質管理体制に対する取引先の信頼は厚く、1949年の創業以来、順調に業績を伸ばしてきた。

今回、本誌のカメラが入った



## 品質マネジメントに徹底注力 高度な技術力駆使し、バンパー、 内装品などの自動車部品を量産



のは自動車部品の生産工場内部だ。

先端機材を駆使したハイテク生産システム、無理・無駄のない作業体制、厳しい品質管理——。本誌は工場の作業風景を概観しただけだが、それでもリードが競争の激しい自動車業界で勝ち残ってきたエッセンスを感じ取ることができた。

シンワブランドの駐輪機器は協力工場に委託しているが、製

品の品質管理、最終チェックは厳格に実施している。時間の制約上、LB事業部の工場には足を運ばなかったが、本社工場の高度な生産体制を取材し、作業員のコメントを取る過程でリードが展開している駐輪機器の製造に対する真摯な取組をうかがうことができたように思う。

岩崎社長は「地球環境に調和

した企業活動を踏まえ、顧客ニーズに合致した魅力的な製品を生産していくことが当社の使命と考えている。たゆみない技術革新と高い開発・技術力をバックボーンとした信頼性の高い製品を供給することで社会貢献を果たしていきたい」と語っている。



リードの本社工場全景。  
57000平米の広さを誇る工場だ